

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2019年12月10日公表ほか USDA Crop Production

10月の農業気象概況(2019年11月8日公表)

大平原地域北部から米国中西部の北方にかけての地域では、低温及び暴風雨により、作付けを早く行った地域で収穫の遅れが生じ、その他の地域では作付けが大幅に遅れたうえに、作物の生育が遅れて生育期間全体を通じて様々な影響が生じた。10月中旬には、大平原地域の大部分及びコーンベルト地域西部で生育期間中を通じて初めて広範囲にわたる降霜の影響を受け、10月13日の時点で、完全に成熟したトウモロコシは米国全体で73%に留り、ダイズの85%が落葉した。

米国中央部の北方でも暴風雨の影響で、テンサイ、ヒマワリ及び春作コムギの収穫が遅れ、収穫物の品質に影響が生じた恐れがある。春作コムギの収穫は、9月29日の時点で90%が終了しており、その後は遅々とした進捗状況が続き、10月20日の時点で96%となったところで完了となった。北部の生産地域の一部、特にモンタナ州で

は、低温で湿潤な気象により、冬作コムギの作付け及び発芽にも影響が生じた。

一方、米国南部及び東部では、10月半ばから10月末にかけて、熱帯低気圧ネストール及びオルガの余波を含めて数度にわたり降雨があり、それ以前の短期的な干ばつの影響が一掃され、牧草及び秋蒔きの作物に必要とされていた水分が得られた。降雨の前の10月始めの時期には、史上最高記録の高温が続き、米国南東部の平均気温が平年並みを3℃以上上回っていた。

その他の地域では、米国西部及び中央部で冷涼な気象が支配的であり、カリフォルニア州、グレートベイズン地域(the Great Basin)及び南西部の砂漠地域では、乾燥状態が続いた。この乾燥状態は東側の地域に広がり、ハイプレーン地域(High Plains)の中央部及び南部にも影響を与えた。10月の平均気温は広範囲の地域で平年並みを少なくとも3℃は下回り、その範囲は大平原地域の北部及び中央部からロッキー山地の北部及び米国北西部に及んだ。カリフォルニア州では、強風、湿度の低下、季節的に乾燥しきった植物といった条件のもとで10月末に山火事が発生し、ソノマ郡のキ

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
オーストリアンウィンターピー 3/	6,640	(未詳)	4,410	(未詳)	1.28	(未詳)	5,620	(未詳)
ヒヨコマメ 4/	347,870	180,170	341,070	176,850	1.69	1.84	577,970	325,410
乾燥食用インゲンマメ 4/	842,160	529,130	815,860	510,110	2.08	2.12	1,700,700	1,080,090
乾燥食用エンドウ 3/	346,620	443,940	326,950	423,310	2.21	2.39	722,530	1,011,010
レンズマメ	315,660	194,660	290,570	185,750	1.31	1.6	381,380	297,240
リンクルドシードピー 3/	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	17,640	(未詳)

(未詳) データが入手できていない。

(X) 適用できない。

1/作付面積はすべての用途のものを含む。

2/四捨五入により、合計の数値に誤差が生じる可能性がある。

3/2019年度以降は、オーストリアンウィンターピー及びリンクルドシードピーは乾燥食用エンドウに含まれている。

4/2019年度以降は、ヒヨコマメは乾燥食用インゲンマメから除外されている。

5/2019年度には推定が行われていない。

作物生産状況：2019年12月10日公表、米国農務省(USDA)、農業統計委員会、国内農業統計局(NASS)

米国の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量(2018年度及び2019年度)

[データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度(2018作物年度)の推定である。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。]

ンケイド火災(Kincade Fire、10月23日から11月6日にかけてジョン・キンケイド・ロード周辺で生じた)では3万2,000haが焼失した。

カナダ：2019年11月19日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

概観

本報告書は、10月に公表されたカナダ農業食料省の2019/20作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

乾燥エンドウ

2019/20作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて30%増加して470万tとなる見込みである。これは、主として、特にカナダ全体の生産量の95%を占めるサスカチュワン州及びアルバータ州で収穫面積が増加し、単収が向上したことによるものである。黄色乾燥エンドウの生産量は、前作物年度に比べて増加して410万tとなる見込みであり、緑色乾燥エンドウ生産量も同じく増加して60万tとなる見込みである。その他の各種銘柄の乾燥エンドウ生産量の合計は、大幅に減少して約5万tとなる見込みである。期初在庫量が少なかったにも関わらず、供給量は増加して過去最高記録の510万tとなる見込みである。輸出量は増加して340万tとなる見込みである。2019年8月から9月までの時点では、中国、米国及

びインドがカナダの輸出先の上位3位までを占めている。供給量が多かったことから、期末在庫量は増加するものと見込まれている。平均価格は2018/19作物年度に比べて低下する見込みである。

10月中では、サスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は10ドル/t上昇し、緑色乾燥エンドウの生産者価格は15ドル/t上昇した。現時点での作柄指標によれば、カナダ産第1等級及び第2等級の乾燥エンドウ供給量は、前作物年度に比べて減少する見込みである。作物年度の現時点までのところでは、緑色乾燥エンドウの価格が黄色乾燥エンドウの価格を60ドル/t上回っているが、前年度の同時期には130ドル/t上回っていた。

米国の2019/20作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて26%増加して110万エーカー（45万ha）となる見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。単収は平年並みを上回る見込みであり、米国農務省の予測によれば米国の乾燥エンドウ生産量は大幅に増加して100万t余りとなる見込みである。米国産乾燥エンドウの主要な輸出市場は、カナダ、フィリピン及びインドである。

レンズマメ

2019/20作物年度の実生産量は20%増加して250万tとなる見込みであるが、これは単収が向上したことによるものである。赤色

レンズマメの実生産量は前年度に比べて大幅に増加して170万tとなり、大粒緑色レンズマメの実生産量は減少して60万tとなる見込みである。その他のレンズマメ全品種の実生産量は、前年度に比べて減少して30万tを下回る見込みである。

輸入量は、大部分が米国からであるが、7万5,000tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が少なかったことから、供給量の増加率は7%だけとなる見込みである。輸出量は増加して210万tとなる見込みである。現時点では、インド、アラブ首長国連邦、バングラデシュ及びトルコが輸出市場の上位を占めている。生産物の品質が低いことから、国内利用量は前年度に比べて増加する見込みである。期末在庫量は減少して55万tとなる見込みである。全般的に平均価格は2018/19作物年度の水準に比べて低下する見込みであり、これは、主として等級分布が平年並みを下回っていることによる。

10月中のサスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格は、前月に比べて30ドル/t上昇しており、赤色レンズマメの価格は同じく35ドル/t上昇した。これは主として輸出需要が強まっていることと、新物のレンズマメに品質上の懸念があることによる。前年度に比べて、2019/20作物年度は第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメ供給量が減少する見込みである。現時点までのところ、大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を130ドル/t上回ったが、2018/19作物年度には赤色

レンズマメの価格を85ドル/t上回っていた。

米国の2019/20作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2018/19作物年度に比べて大幅に減少して20万haを下回る見込みであるが、これは主としてモンタナ州で作付面積が減少したことによるものである。単収が平年を上回り、収穫を断念する面積の割合は低い見込みであるが、2019/20作物年度の米国のレンズマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、2018/19作物年度の水準から44%減少して30万tとなる見込みである。現時点での米国産レンズマメの主要な輸出市場は、EU諸国、カナダ、インド及びメキシコである。

乾燥インゲンマメ

2019/20作物年度の生産量は増加して35万6,000tとなる見込みである。このうち9万4,000tがホワイト・ビーンであり、26万2,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の生産量は減少したが、これは単収が低下したことによるものである。マニトバ州では生産量が増加したが、これは単収が向上したことによるものである。アルバータ州では、カラード・ビーンが生産量が増加したが、これは単収が向上したことによるものである。期初在庫量が多かったことから、供給量は12%増加する見込みである。

輸出量は前年に比べてわずかに減少する見込みである。8月及び9月のデータによ

れば、EU諸国及び米国が輸出市場の上位を占めており、アンゴラ及びメキシコへも、より少ない量が輸出されている。供給量が高水準であったことから、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。北米大陸での供給量がわずかに減少しているにも関わらず、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は低下する見込みである。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、7%増加して52万6,000haを下回る見込みであるが、これは主としてミネソタ州で作付面積が増加したことによるものである。2019/20作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、2018/19作物年度に比べてわずかに減少して110万tとなる見込みである。特に減少が顕著だった銘柄は、ホワイトピー・ビーン及びピントー・ビーンであった。米国産乾燥インゲンマメの輸出市場は、引き続きカナダ、EU諸国及びメキシコである。

ヒヨコマメ

2019/20作物年度の実生産量は前年度に比べて大幅に減少して26万3,000tとなる見込みであるが、これは、収穫面積の減少及び単収の低下によるものである。カブーリ種の生産量は前年度に比べて減少する見込みであり、デシ種の生産量はわずかに増加する見込みである。このような状況であるにも関わらず、期初在庫量が多かったことから、総供給量は増加する見込みである。輸出量は、15万tとなる見込みであり、米国

及びパキスタンが輸出市場の上位を占めている。供給量が増加し、引き続き在庫量が多いことから、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。平均価格は大幅に低下する見込みであるが、これは世界の生産量が史上最高記録になる見込みであることと、カナダ産ヒヨコマメの品質が平年並みを下回る見込みであることによるものである。

2019/20作物年度の米国のヒヨコマメ作

付面積は、米国農務省の予測によれば、45万エーカー（18万ha）となる見込みであって、2018/19作物年度に比べて48%の減少となる。単収が向上し、収穫を断念する割合が平年並みを下回るものとする、2019/20作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、前作物年度に比べて大幅に減少して33万tとなる見込みである。

表2 カナダの豆類作付面積・収穫面積、単収その他

	乾燥エンドウマメ [a]：2019年11月19日			レンズマメ [a]：2019年11月19日			乾燥インゲンマメ [a]：2019年11月19日			ヒヨコマメ [a]：2019年11月19日		
	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]
作付面積(1,000ha)	1,656	1,463	1,753	1,783	1,525	1,530	135	143	147	68	179	159
収穫面積(1,000ha)	1,642	1,431	1,722	1,774	1,499	1,501	132	137	142	68	176	155
単収(t/ha)	2.5	2.5	2.71	1.44	1.4	1.68	2.45	2.49	2.51	1.49	1.77	1.7
生産量(1,000t)	4,112	3,581	4,673	2,559	2,092	2,520	322	341	356	102	311	263
輸入量(1,000t) [b]	12	62	60	35	51	75	86	97	85	48	51	40
総供給量(1,000t)	4,424	4,291	5,059	2,908	3,016	3,228	409	463	521	151	376	403
輸出量(1,000t) (b)	3,085	3,247	3,400	1,538	2,032	2,100	350	348	345	116	147	150
国内総利用量(1,000t) (c)	691	718	1,059	497	350	578	34	36	36	21	129	128
期末在庫量(1,000t)	648	326	600	873	634	550	25	80	140	13	100	125
在庫量/利用量(%)	17	8	13	43	27	21	7	21	37	10	36	45
平均価格(\$/t) (d)	265	270	225-255	475	390	365-395	760	815	770-800	950	480	425-455

[a]作物年度(8月から7月)。

[b]輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c]国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d]生産者価格(FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f：推定。カナダ農業食料省。ただし、2018/19年度及び2018/19年度以前の年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、カナダ統計局の推定。2018/19年度以前の年度の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量は、カナダ統計局の推定。

資料：カナダ統計局(STC)及びカナダ農業食糧省(AAFC)。

オーストラリア： 2019年12月公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアの冬作物の総生産量は、大部分の生産地域、特に西オーストラリア州及びニューサウスウェールズ州南部で、春の始めの生育条件が当初の見通しを下回り、生育条件に恵まれなかったことによる影響を受けた。大部分の生産地域で降水量は平年並みを下回り、日中の気温は平年並みを上回った。生育条件に恵まれなかったことで、大部分の生産地域の総生産量の見通しが引き下げられた。なかでも西オーストラリア州及びニューサウスウェールズ州南部の引き下げ幅が大きく、オーストラリア全体の総生産量見通しの引き下げの要因となっている。これと対照的に、南オーストラリア州及びヴィクトリア州の南部の大部分の生産地域では、春に時宜を得た降水量が得られたことから、単収が平年並みから平年並みを上回る見込みである。

多くの地域で収穫が進行中であるが、11月初めの降雨によりニューサウスウェールズ州南部、ヴィクトリア州及び南オーストラリア州で収穫が遅れが生じている。最新の降水量見通し（オーストラリア気象庁、2019年11月21日公表）によれば、

大部分の生産地域の12月の降水量が平年並みを下回るものとみられている。

冬作物の総生産量は2019/20年度には3%減少して2,940万tとなる見込みであり、この値はABARESが9月に公表した見通しに比べて13%の引き下げとなっている。

総生産量の予測は、2018/19年度までの10年間の平均を約27%下回っており、2016/17年度に過去最高記録を達成して以来、3年連続で減少することになる見込みである。ヴィクトリア州の冬作物総生産量は、オーストラリア全体の総生産量の約24%となる見込みであり、2018/19年度までの10年間の平均が16%であったのに比べて大きく上回っている。

主要な冬作物では、コムギの総生産量が8%減少して1,590万tとなる見込みであり、2018/19年度までの10年間の平均を35%下回る見込みである。オオムギの総生産量は、4%増加して870万tとなる見込みであり、2018/19年度までの10年間の平均を3%下回る見込みである。ナタネの総生産量は、4%減少して210万tとなる見込みであり、2018/19年度までの10年間の平均を35%下回る見込みである。

その他の作物では、ヒヨコマメの総生産量が2%増加して28万9,000tとなる見込みであり、オートムギの総生産量は5%増加して93万5,000tとなる見込みである。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2017-18	2018-19s	2019-20f	2017-18	2018-19s	2019-20f
ヒヨコマメ	1,075	303	268	998	282	289
ファバビーン(ソラマメ)	313	178	196	416	217	322
フィールドピー	291	179	236	317	152	257
レンズマメ	418	303	240	543	323	338
ルーピン	612	500	520	714	693	532

f : ABARES による予測。 s : ABARES による推定。

注 : 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

資料 : ABARES(オーストラリア農業資源経済局); オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2017-18	450	407	77	78	507	467	34	38	7	8	0	0
2018-19 s	50	35	20	20	200	190	25	25	8	12	0	0
2019-20 f	25	20	50	75	170	170	15	17	8	7	0	0
2018/19年度までの 5年間の平均	317	401	31	36	335	476	22	23	5	7	0	0
フィールドピー												
2017-18	75	46	84	91	0	0	102	137	31	42	0	0
2018-19 s	39	29	50	35	0	0	70	50	20	38	0	0
2019-20 f	41	34	55	60	0	0	105	125	35	38	0	0
2018/19年度までの 5年間の平均	53	60	58	62	0	0	99	114	26	39	0	0
レンズマメ												
2017-18	2	1	210	261	0	0	198	274	8	6	0	0
2018-19 s	7	5	125	105	0	0	160	200	11	13	0	0
2019-20 f	6	5	110	140	0	0	110	175	14	18	0	0
2018/19年度までの 5年間の平均	3	4	128	137	0	0	147	249	4	4	0	0
ルーピン												
2017-18	95	46	49	52	0	0	66	82	402	532	0	1
2018-19 s	50	38	30	20	0	0	40	35	380	600	0	1
2019-20 f	91	90	34	37	0	0	45	55	350	350	0	0
2018/19年度までの 5年間の平均	69	65	38	38	0	0	61	69	352	555	0	0

f : ABARES による予測。 s : ABARES による推定。

注 : 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

資料 : ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表5 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 (1,000t)	2016-17 (1,000t)	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)
生産量						
ルーピン	626	549	652	1031	714	693
フィールドビー	342	290	205	415	317	152
ヒヨコマメ	629	555	875	2004	998	282
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	286	306	398	637	258	485
フィールドビー	175	124	72	148	189	72
ヒヨコマメ	0	1	1	1	1	0
輸出量						
ルーピン	340	243	254	395	456	208
フィールドビー	169	168	134	268	130	82
ヒヨコマメ	629	663	1145	2293	724	357

a：生産量に輸入量を加えた値から輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注：生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ビー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。オーストラリア統計局の農業データ収集の範囲の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産者(EVAO)を対象として生産量を集計していたが、2015/16年度以降は40,000ドル以上のEVAOを対象としている。資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表6 豆類価格の推移 (豪\$/t)

	2018				2019		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
国内価格：ルーピン(クィナナ調べ)	292	323	330	363	374	388	396
国内価格：ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	598	645	736	789	802	694	646
国内価格：フィールドビー(メルボルン調べ)	305	378	429	516	620	542	505
輸出価格：ヒヨコマメ b	821	737	764	835	896	833	750
輸出価格：フィールドビーb	400	425	494	546	683	689	658

a：単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

資料：ABARES(オーストラリア農業資源経済局)、オーストラリア統計局、CMEグループ、Farm Weekly、国際穀物審議会、The Land、The Weekly Times、米国農務省。